

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2014年 秋号(季刊) 第133号

「東上線沿線多文化交流サロン」開設

外国の人たちと気軽な文化交流

埼玉県「豊かな地域福祉づくり推進事業」の補助金を受け、多文化交流サロンを開設しました。平日の午後1時から4時の間、気軽にお茶を飲みながら話ができる場所です。

駅近くになり、ふらりと仕事帰りに近況報告に来る外国の方、電車に乗って相談に来る埼玉県内の外国の方、土曜日の国際子どもク

ラブの子どもたち、と毎日大変賑わっています。

また外国の料理教室、手芸などさまざまな文化交流が始まりました。今後も定期的な開催で外国人も日本人も楽しめる場所になるよう計画しています。どなたでも参加できますので、遊びに来てください。



外壁を塗装し手作りの看板をつけた新事務所



お茶を飲みながら話ができるサロン



クレイフラワーpart I 教室



台湾料理教室



フィリピンのイベント

多文化交流サロンのイベント

台湾やフィリピン、日本人スタッフがそれぞれの得意分野で講師を務めています。

実施したイベント

- ①クレイフラワー part I 教室 8/22 講師(山崎友理): やわらかい粘土で、バラの花飾りを作りました。
- ②台湾料理教室 9/25 講師(寺村璧如): 焼きビーフン、酸辣湯、セロリとイカの炒め物、デザートを作りました。
- ③フィリピンのお菓子と英語で話そう10/24 講師(吉井ジュリエッタ、穴沢エミリン): 英語を使ったイベント。バナナキューというお菓子を作りゲームで盛り上がりました。



今後のイベント予定

- ④セイロン紅茶……11/29(土)13時～15時、¥700 講師(チャンディカ)
- ⑤お正月のお花……12/17(水)13時～15時、¥800 講師(戸塚成子)
- ⑥クレイフラワー part II ……1/19(月)13時～15時、¥1,500 講師(山崎友理)
- ⑦卒業式や入学式のコサージュづくり……2/25(水)13時～15時、¥800 講師(戸塚成子)

※お申し込みは FICEC ☎049-256-4290まで

フジテレビ「スーパーニュース」でFICECの活動が放送されました

9月25日、フジテレビ「スーパーニュース」でFICECの活動の様子が特集されました。ホームページでFICECを知ったというディレクターの小野寺宏介さんが、密着取材を開始したのは4月のこと。約5か月間、時にはスタッフの一員のように親身になってカメラを回していました。一人一人の話をととても丁寧に聞くのに驚いたものです。外国人の方とも仲良くなり「今日、お店の方行くからね」「はい」と

いった会話が何度も聞かれました。時には、生活相談の成り行きにドラマチックな展開を期待して同行取材したものの、あっさり解決…、

スタッフにとってはホットした出来事が皮肉な結果になったことも。

特集のタイトルは「外国人の駆け込み寺」。外



国人を取り巻く状況の暗い面を強調しすぎると「視聴率」が上がらないと考えたテレビ局が付けたタイトルだそう。放送終了後、様々な反響がありました。埼玉、東京、神奈川と各地から相談や問い合わせがありました。センターの活動の理解が高まるいい機会となりました。

体験ワールドツアー

8月19日にふじみ野市社会福祉協議会から依頼を受け、イベント「体験！ワールドツアー」を開催。8組の親子に参加していただきました。

講師は、ふじみ野にあるカレー屋「ダナパニ」のシェフであるサブコタ・キリスマ・パラサドさん(ネパール人)とFICECの日本人スタッフ。はじめにスタッフがパネルを使ってカレーの歴史の話をし、その後サブコタさんと共にネパールの家庭料理の調理実習、サブコタさんが撮影したネパールの写真鑑賞、ネパールの遊びとネパール語を使ったゲームを行いました。

調理実習のメニューはチキンカレーとネパール風お漬け物の”アチャール”と、ヨーグルトを使ったデザートの種類。いくつものスパイスを使って短時間でお店のようなカレー作りを再現するサブコタさんには、皆さん「さすが！」の一言でした。



子ども大学みよし「カレーの旅」

9/15 第4回目は、FICEC担当のカレーのルーツを学び本場のカレーを作る講義でした。幕末に日本にカレーを伝えたのは英国人。でも英国人もカレーのスパイスを、インド各地で手に入れたこと。かつて、胡椒は、金と同じ価値があったこと等、子ども達は、興味深く聞いてくれました。その後は、スリランカの二人の講師の指導で、本場のカレーを作りました。短い時間でしたが、3種類のカレーは、とてもおいしくできました。手で食べる事を嫌がっていた子ども達も、最後にはお代わりしてまで食べていたのを見て、嬉しかっ

たです。

三芳町で久しぶりに国際交流イベントを開きました。今後も、色々な企画の手伝いが出来ればと思います。チャンディカさんニーランティーさん美味しいカレー作りの指導ありがとうございました。



幸せの黄色いレシートキャンペーン促進活動

イオン(株)が実施する地域社会貢献活動です。毎月11日のお買いものレシート金額の1%が参加団体へ還元されます。黄色いレシートを25のボランティア団体の中から支援したい団体のBOXへ投函します。昨年は、還元していただいたお金で掃除機を購入しました。

今年から、参加団体が1F食品売り場レジ近くで、レ

シートを入れる箱を持って声掛けをしています。スタッフが毎月11日の15時～16時にいます。ご協力よろしくお願ひします。



国際子どもクラブの場所が変更になりました

2014年7月の事務所転居に伴いFICECで実施しています。今は、日本に来たばかりの子ども達がたくさん通ってきています。9時～12時まで事務所の中

は、30名近い子ども達とボランティアの熱気であふれています。一度見に来て下さい。

申請書類を書くのは難しい

藤林 美穂

私は行政書士として毎日のように外国人のお客さんに会っていますが、行政書士になりたての頃は、自分が外国人相手の仕事ができるのかどうか、まったくわかりませんでした(なお行政書士の仕事の中にもいろいろなものがあり、私は外国人の入管業務を中心にやっています)。入国管理局での申請書類を外国人本人に代わってつくるのが私の仕事です。でも、最初の頃は「書類なんて本人が書けるものなのに、それをやってあげると言ってもお客さんは来ないんじゃないか?」とか、「それでお金をもらってもいいんだろうか?」と考えていました。でも、実際には「本人が書く」ということはすごく難しいことなのです。

入国管理局に行くと、外国人が苦心しながら申請書を自分で書いている光景をよく見ます。ちなみに、行政書士という職種はほかの国にはなく(韓国には同じような制度があるようですが)、日本国内でもそれほど知られていないため、書類を誰かに依頼して書いてもらえる、ということを知らない外国人が圧倒的に多いようです。まあお金を払うのがいやで自分で書く人もいますが…。

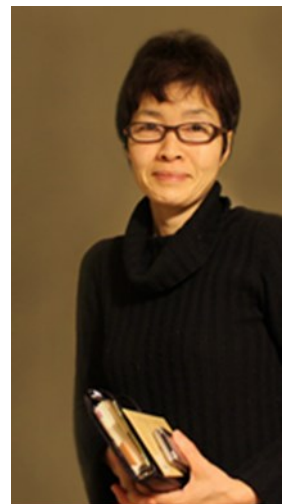
入管の申請書は日本語と英語(しかもあまり親切な訳ではありません)の表記しかないので、その二つの言語ができない人は自分では書けません。それに、仮に日本語がとてできる人でも(日本人でさえ)慣れていないと何を書けばいいのか判断に迷うような部分もあり、日本人ないし日本で教育を受けた人が家族にいても、なかなかすべてを正確に記入するのは難しいのです。入管の中にも書類の書き方を教えてくれるコーナーがあるのですが、ごく一般的なアドバイスしかしないのと、必ずしも外国人の立場にたって

教えてくれるわけではないので、複雑な事情を抱えている人には向いていません。添付する書類も山のようにあり、それをそろえるだけでもかなり時間がかかります。

また、在留資格の申請は通常更新なら1年、あるいは3年ごとに申請するものなので、一回やったことがあっても次の申請の時にはもう忘れていたり、法律や制度自体が変わってしまったりして、前の知識を生かすことができません。

そういうわけで、毎度入管に行くたびに、ベンチで頭を抱えている外国人を見て、お気の毒に思うことが多いのです。その場で売り込みをするわけにもいきませんが、先輩の行政書士から、入管で困り果てている外国人を見て思わずその場で代書してあげた、という話を聞いたことがあります。

まあそんなことがあるから行政書士という仕事が成り立つわけですが、そのことを棚に上げて時々頭に浮かぶのは、こんなに複雑な申請書類を書かせる必要があるのかなあ、という素朴な疑問です。申請のルールを決めるのはすべて入国管理局の側です。当の外国人はルールの中身(法律やその運用)についてほとんど知る機会なしに自分の日本での在留をかけたゲーム(申請)に挑まなくてはなりません。アンフェアなゲームだと思いませんか。



多文化包摂社会

山口 幸夫

理事の山口幸夫です。スイスで生まれ、小学校の時、日本に戻り、大学卒業後は留学そして国際協力の仕事で中国や東南アジアで長く暮らしました。日本に戻ってからは移住者支援と災害復興支援のアクションリサーチをしています。

ともすると「支援」する人たちは無意識のうち、被災者や外国籍等市民は「弱い」「可哀想」な存在であって、その人たちを日本語能力があったり被災していない「力」ある自分たちが助けるのだと思い込む傾向があるのではないのでしょうか？

支援で最も大切なのは個人やコミュニティの尊厳を重んじ、その長所・ストロングス（得意なこと、伝統芸能などの文化的価値、規範）を見て、それを尊重した支援をすることです。それをストロングスモデルと呼びます。被災者に「家もなくした、お金もない、仕事もない」などと、問題点を指摘して、その粗探しばかりする人はいないでしょう。移住者の人にはどうでしょうか？「日本語が下

手、日本の社会を知らない、仕事がない……」

ストロングスをみつけるアセスメントではあるグループや個人の中にある自己肯定、自尊感情の源となる長所を見つけ、それをよりどころにレジリエント（危機に直面しても折れない心・回復力）を引き出す。そしてその人やコミュニティのエンパワメント（本来の能力や力を発揮する）を支援します。

ですから、ストロングスモデルによる支援のためには自分たちのことをよく知っている当事者のイニシアチブが大切です。たとえばシングルマザーの支援団体で、理事が男ばかりという団体はないでしょう。しかし移住者支援団体はどうでしょうか？

FICECでは外国籍等市民の理事や会員として活動に主体的に参加する人がどんどん増えてきました。こうして、民族や国、障害や年齢、男女など多様な人々の人権と文化が尊重される互惠互助の地域を作っていくことが日本の多文化包摂だと考えます。

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 ナナエ

嵐山の国立女性教育会館で厚生労働省の村木厚子さんのお話を聞いた。すらりとした美しい声の女性で、こんな女性をどうしてあんなにいじめたのか理解に苦しむほどだった。

厚労省の女性政策について話をした後、「あの村木です」と、事件当時の体験や女性たちに送るメッセージを伝えてくれた。

- ①仕事を任されたら受けること
- ②責任あるポストを与えられたら引き受けること
- ③昇進をしなさい。階段を上っていくといろいろ見えてきます
- ④文句を言ってもいいが、やるべきことをやりな

がら言う

- ⑤保育所など社会資源を活用する
- ⑥職場に迷惑をかけているか、子どもの為の良い母親だろうか等と悩まない
- ⑦貸し借りの感覚を持って、恩を返す
- ⑧いろいろ課題があるが、楽な仕事ばかり選ばない
- ⑨夫をほめろ、ほめたら木に登る。ほめられたい夫を活用せよ

ユーモラスでエネルギッシュな彼女の話聞いて、空が一層青く見えた。

国際交流フォーラム開催

主催：富士見市・富士見市教育委員会・富士見市国際友好協会

富士見市の「キラリふじみ」にて「国際交流フォーラム」(主催:富士見市・富士見市教育委員会・富士見市国際友好協会)が9月28日に開催されました。FICECも協力団体としてフォーラムに参加。FICECに関わりある2人の外国人(フィリピン人の秋本ノエミさん、中国人の劉圭霖さん)が「在日外国人の主張」の登壇者としてスピーチを行いました。また、今までのあゆみをパネルで展示してFICECの活動を知ってもらい、外国の遊びを紹介して来客した方々と交流を行いました。今回は「外国人の主張」のスピーチをご紹介します。

秋本ノエミさん

私は、フィリピンから来た秋本ノエミです。

日本に来て言葉の壁に一番苦労しました。漢字が大変難しいと思います。子育てをしながら日本の文化について学びました。週一回、日本語をボランティア団体に行き勉強しました。勉強している間は主人のお母さんが娘の面倒を見てくれました。日本の文化を学ぶことが難しかったです。

また親戚や近所の方達と上手く付き合うことも心配でした。お母さんが沢山助けてくれました。日本の習慣、料理、親戚との付き合い、近所の付き合いなどが上手く行ったのはお母さんのおかげです。中でも一番大変だったこと事はお盆とお彼岸の時でした。お盆の行事はフィリピンと違うし、お彼岸はありません。これもお母さんに沢山教わりました。お母さんの亡くなった今は、私一人で頑張っています。お母さんから教わった色々な日本の歌、遊び、昔ばなしをしながら、娘を育てました。

これほどまでに私を守ってくれ、支えてくれ、沢山の学びをくれたお母さんに感謝しています。

お母さんは近所の人からの信頼が厚く、外国人の私から見ても人望のあるひとでした。そのおかげで近所の方も優しく私を迎え入れてくれました。

今は近所の付き合いが、薄れてきている世の中ですが、私は若い方々にもっと近所の方とのつながりを大切にして頂きたいと思います。日本でもフィリピンでも、昔は家におじいちゃんやおばあちゃんがありました。家族みんなが一緒に暮らしていて、孫達にも囲まれていました。しかし今は、おじいちゃん、おばあちゃんが孫と手をつないで歩いている姿など見かけなくなりました。

外で子供達が遊んでいる姿もなくなりました。習い事が忙しんでしょうか？ゲームに夢中だからでしょうか？

時代が大きく変わったなと思います。寂しい気持ちを感じます。社会が変わっても社会が段々進化しても人間の心だけは変わって欲しくないと思います。



私は、おばあちゃんから日本の事をいっぱい学びました。それを娘に教えてあげています。きっとこれは、おばあちゃんが望んでいた事と思います。それが母親としての責任であり役目でもあります。

子育てに忙しい時期は、家庭と仕事におわれて、今回のような国際交流の仕事はあまりしていませんでした。私より後に日本に来た姉は、子供がいなかったこともあり都内で積極的にフィリピンを紹介する活動を始めました。日本人から信頼され、生き生きと活動する姉に刺激を受け、子育てがひと段落したあとは、私も国際交流の仕事を進んで受けるようになりました。

小さい時は おとなしい性格で人に声をかけることができなかった私。

今、みなさんの前で話をしています。自分では信じられないことです。私の話が、みなさんに上手く伝わりましたか。伝えることができたとしても嬉しいです。今日は、ありがとうございました。

劉圭霖(リュウケイリン)さん

私は、劉圭霖(リュウケイリン)です。中国の上海出身で、今年で28歳です。西武文理大学の留学生として日本に来ました。埼玉県狭山市に住んでいます。

私達は普段、見知らぬ人やものと接する時、色々な事をイメージします。そして、そのイメージに基づいて、その人物や様々な物事を想像します。しかし、この勝手に作ったイメージ図は、ただ氷山の一角にすぎません。これらがそのまま、その人の先入観になったら、誤解や支障が生じるかもしれません。

日本と中国は長く付き合っている隣国同士ですが、今の両国の政治関係は全く良いとは言えな

い状態です。繋がりあうパイプも少なく、お互いに相手国の情報を得る手段は、非常に限られています。今日は富士見市国際フォーラムの舞台を借りて、日本人の皆さんがあまり知らない水面下の話をパワーポイントを使って紹介しましょう。



2、伝統の姓・名・字・号

“お名前は何ですか”という挨拶語は、中国で普通に言う。中国現在には4100種類の苗字があって、その中最もよく使われる苗字に基づいて、《百家姓》を整理した

最新の《百家姓》ランキングにより、人数ベース1から20位：
王 李 张 刘 陈 杨 黄 赵 周 吴 徐 孙 马 胡 朱 郭 何 罗 高 林

1800年前三国時代の戦略家 **諸葛亮**

苗字：諸葛
名前：亮
字：孔明
号：臥龍

・昔中国では、男子が成人式の際、“表字”をもらえ、それは大人になった男子の正式名になる

・出世してから、多くの人は自分に個性的なニックネームを付ける。これは“号”という

3、女性の社会地位

結婚

結婚

・本名：王燕子
・諸葛王氏に改姓
・一方的に離婚できない

・本名：王燕子
・変更かどうか自由
・離婚自由あり

・本名：諸葛亮
・変更なし
・勝手に離婚できる

・本名：諸葛亮
・変更なし
・離婚自由あり

今の中国の女性は男性と同じように各分野で活躍しているので、家事や育児は女性だけの責任ではなくなる。比べたら、今の中国の女性は日本人女性より気が強いかもしれない

4、一人っ子政策

・甘やかされた一人っ子はなかなか自立できないこと

・一人っ子同士の子どもが、将来6人の面倒を見るのは、負担が大きいこと

・年金赤字や高齢化社会等の問題が大きくなってきた

一人っ子政策の始め
中国の一人っ子政策は20世紀80年代からやり始めた、各市町に住んでいる漢族人を対象として実施された

一人っ子政策の止め
2013年から、主要な都市部をはじめ、各省市では緩和策を打ち出した

参加者の興味を引いて、プレゼンが終わった後もわざわざ私のところに来て、励ましてくださり、とてもありがたいと思いました。私は在日留学生ですが、お互いに真実を伝えあう使命がある

- ① 現在の中国人の名前の事情と、三国時代の戦略家諸葛亮の例を挙げながら、中国伝統の姓・名・字・号について。
- ② 百年以上前、男尊女卑時代の女性の社会的地位と現在の女性の社会的地位について。
- ③ 30年前に「一人っ子政策」が実施された背景と、その後もたらされた「一人っ子政策」による問題点。それらを解決するため打ち出された緩和策について。

と思います。普段の活動を通じて、両国の人々が少しでも相手に好意を持つようになったら、私はすごく嬉しいです。

センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

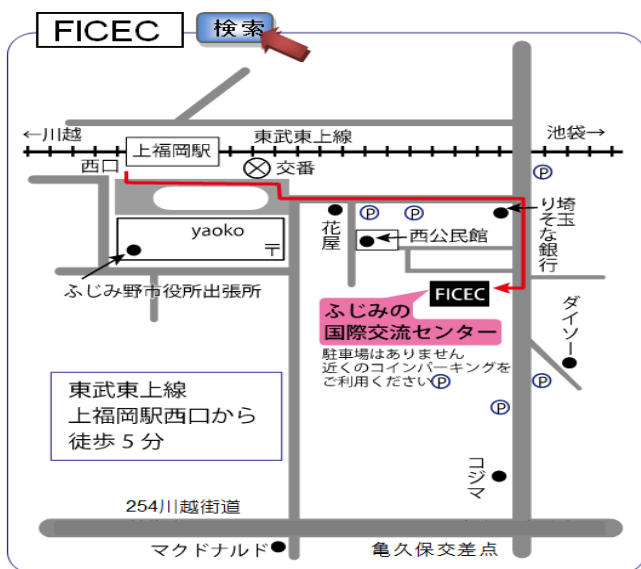
外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2013年4月～(50音順・敬称略)

阿澄康子、穴沢順、安部幸枝、新井良司、荒田光男、有山高司、イオン(株)大井店、石井ナナエ、伊藤真弓、岩田仁、大澤大地、小熊千寿子、小原知子、郭秋蓮、葛西敦子、加藤久美子、川井敏生、神田順子、「キスだけでいいわ」公演実行委員会、樟山直美、公野昇、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、小林桂子、駒形一夫、佐藤義治、菅山修二、鈴木譲二、田中つや子、寺村璧如、戸賀沢隆士、戸塚成子、中村禎作、西川由比子、野沢弘子、野辺頼之、萩原千代子、長谷川雅恵、長谷川正江、東入間地区遊技業防犯協力会、FICEC英語教室参加者一同、藤林泰、松浦康介、森和也、森田信子、山崎友理、山畑博子、(株)吉岡、劉圭霖、匿名希望1人

埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター サービス案内

外国人ゲスト派遣	国際理解教育 外国料理教室	3,000円+交通費+事務費 5,000円(材料費別途)	
日本人講師派遣	多文化共生講座 ボランティア講座	20,000円+交通費 (活動運営のためご協力ください)	
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等		内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報紙・ガイドブック・チラシなどの制作		
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書 その他の文書	A4 1,500円/ページ A4 3,000円~/ページ	
通訳		半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日	
●印刷機、コピー機が使えます			
印刷機		マスター(製版代)1枚100円 印刷代1枚1円	
コピー機		白黒10円/枚、カラー30円/枚	

埼玉県指定・認定
特定非営利活動法人 **ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
TEL:049-256-4290 FAX:049-256-4291
生活相談専用電話 049-269-6450

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページからお気軽にご連絡ください。